

会 議 録

会議名	平成26年度 第5回 相模原市経営評価委員会		
事務局	企画部 経営監理課		
開催日時	平成26年9月30日(火曜日) 午後6時00分～午後7時45分		
開催場所	市役所本庁舎 本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	出席委員10人(別紙のとおり)	
	市		
	事務局	4人(経営監理課長 他3人)	
公開の可否	公開可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由	/		
会議次第	<ul style="list-style-type: none"> 1 開会 2 傍聴者確認 3 議題 <ul style="list-style-type: none"> (1) 事務事業評価に係る建議書(案)について (2) その他 		

主な内容は次のとおり。

- 1 傍聴者確認
- 2 議事
 - (1) 事務事業評価に係る建議書(案)について
評価が分かれている事務事業を中心に建議書(案)の審議を行った。
 - (2) その他
次回委員会開催日程の調整を行った。

(以下質疑応答・意見交換 委員の発言、事務局の発言)

(1) 事務事業評価に係る建議書(案)について

保育所待機児童対策推進事業

拡充とは他の予算を削っても拡充するとの条件から、子育ては重要だから拡充とするとのことだけでは理由にならないのではないかと。積極的に推進すべきとの姿勢が必要ではないかと。

保育所の待機児童対策については、市として待機児童ゼロを目指しており、人や予算も集中して取り組んでいる。委員会としても積極的に推進すべきとの意見を付して「拡充」とすれば、市の方針とも合致することとなる。

目的が達成されれば予算を縮小していくことになるのか。

本来はそうなるが、新たな待機児童対策として、引き続き必要になることも考えられる。

○国においても、待機児童対策を重要視しており、その必要性は認識しているが、財政的な部分にも考慮して、受益者負担の考え方を入れた方がよいのではないかと。

○保育所等を増設していく中で、受益者負担を見直しただけでは成り立たないと思う。

保育料については、政策的な要素が強いため「受益者負担の在り方の基本方針」に基づいて決める料金としていないことや、待機児童対策と受益者負担の在り方とは別の問題でもあることから、受益者負担の検討については、全体の意見として掲載したほうが良いかと思う。

待機児童の解消を図っていくためには、保育所の設置場所など利用者のニーズに応えていくことや、市としても待機児童対策を重点的に進めていくこととしているため、予算をつぎ込み拡充していくことで良いと思う。

○委員会の評価は「拡充」とする。

峰山霊園整備事業

ヒアリングでのやり取りもあったが、担当課からは財源を拡充するのではなく取組の中で工夫して、個数を増やすという意味での拡充である。

ニーズが高い事業ではあるが、有限の土地を有効活用する必要があり、整備方法等を工夫して取り組んでいただきたいと考えている。限られた財源の中で、整備方法等の工夫により個数を増やしていく考えであれば現状維持の評価が良いと思っている。

○今後の需要や計画を策定していくことを踏まえ拡充として評価を出したが、整備方法を工夫し、個数を増やしていく考えであれば現状維持でも良い。

○委員会の評価を「現状維持」とし、整備方法等で、さらに工夫することを意見として加える。

商店街振興支援事業

委員の皆様のご意見は、これまでのやり方を、さらに工夫して事業を進めて欲しいと言った趣旨の意見であるため「現状維持」の評価で良いのではないかと。

○委員会の評価は「現状維持」とする。

中心市街地活性化事業・小田急多摩線延伸促進事業

中心市街地活性化事業については、現在、市において広域交流拠点都市の計画策定を進めている中で、この事業を切り離して考えることはできないものであるため、「拡充」の評価が妥当ではないかと。また、意見として、広域交流拠点都市の形成を図っていくうえで、必要がある事業との意見を加えた方がよい。

そのとおり意見として加える。

事業単体で見れば「現状維持」という判断もあるかと思うが、今後の他の事業を考えれば「拡充」とした方がよい。

限られた財源の中で、市内3拠点全てに投資していくことが可能なのか。選択と集中という考え方はできないのか。また、市が投資をするだけでなく民間活力も活用しながら進めていくことも考えていくべきではないかと。

PFIの手法などによる民間活力の活用も取り入れつつ、選択と集中を進めるべきとの意見を加える。また、中心市街地活性化事業については、小田急多摩線延伸促進事業とも関連があるので一緒に審議していただきたい。

今後は、拡充していく必要はあるものの、すぐにでも拡充すべき事業なのか。もし、将来的に拡充であれば、どこまでの将来を見据えて評価すべきか考える必要がある。

委員会評価を「現状維持」とするならば、今後、広域交流拠点都市を進めていく中で、どのように整合を図っていくのか課題提起する必要がある。

市としても、この2つの事業は、広域交流拠点都市の形成にあたって重要な事業と考えており、1次評価で「拡充」と評価している。

リニア中央新幹線の新駅設置や相模補給廠の一部返還など、国やJR等の動向にも注視しながら進めていく必要がある。このため、拡充するタイミングも柔軟に対応する必要があると思う。

○中心市街地活性化事業については、既存市街地の活性化は現在も取り組んでいるものであり、今後、相模補給廠等の返還も見据えて取り組むべきものであるため「拡充」がよいのではないかと。

小田急多摩線延伸促進事業本事業については、今後は拡充する事業であるが、具体的な計画や認可もまだという状況を勘案すれば、すぐに大きく動き出すものでもないため「現状維持」としても良いと思う。その上で、意見として事業の必要性を認識しており、将来的に事業を拡充していく必要があることに触れておく方がよい。

中心市街地活性化事業の委員会評価は「拡充」とし、民間の活力を活用するなどの手法を取り入れ財源の節約に努めることを意見として加える。また、小田急多摩線延伸促進事業の委員会評価は「現状維持」とし、将来的に事業を拡充していく必要があることを意見として加える。

民間住宅施策の推進

空き家対策はこの中に入っているのか。

入っていない。

この事業をこれらかも継続していくつもりなのか。

担当課からは、そのように聞いているが、広く市民に補助できるように補助制度の見直しを行うなど工夫はしている。

委員会の評価は「現状維持」とする。

(2) その他

次回の委員会の開催は、2月頃とした。

氏名	所属団体等	出欠
山口 由紀子	相模女子大学教授	出
川崎 一泰	東洋大学経済学部教授	出
出雲 明子	東海大学准教授	出
霧生 卓	公認会計士	出
田所 昌訓	相模原市自治会連合会	出
長谷川 光明	相模原商工会議所	出
大島 浩之	公募委員	出
西村 初代	公募委員	出
芳賀 貞江	公募委員	出
安田 隆春	公募委員	出